

1952: アダムとエルスベス・マクレーン

コーでの結婚式

エルスベス・スポエリーは1946年の第1回会議のために、廃墟と化したコー宮殿の清掃を手伝っていましたが、その6年後に1,000人を超える会議参加者をゲストに迎え、そこで結婚式を挙げることになるとは想像もできなかったでしょう。

エルスベスは1952年8月9日にアダム・マクレーンと結婚しました。誇り高きスコットランド人であるアダムはキルトを着用し、エルスベスの8人の花嫁介添人はさまざまな国から来ていてそれぞれの民族衣装を身にまっています。3つの宗派から4人の牧師が司式しました。「私達は完璧に結ばれた」アダムは自伝にこう書いています。

結婚式が異例だった理由は他にもあります。エルスベスは、スイスでも有数の大企業経営者の家族の一員として、チューリッヒの恵まれた環境で育ちました。アダムの父親は、エジンバラ近郊のマッセルバラで炭鉱労働者として働いていました。アダムは14歳で学校を中退し、夜間学校で教育を受けました。エルスベスはチューリッヒ、ジュネーブ、フライブルクの大学に進み、法学博士として卒業しました。

二人はそれぞれ1930年代にMRAに出会います。エルスベスは、夫のフィリップとともにコーパレス購入の責任者となったエレヌ・モットウを通じて、アダムは自動車整備士として働いていた整備工場の上司を通じて、MRAに出会いました。第二次世界大戦中、エルスベスは父親の工場で働き、救急車の運転手の訓練を受けました。

戦争が勃発した時、アダムはMRAの普及活動に参加して北米にいました。彼はアメリカに留まり特に航空機産業において、士気を高めたり労使関係の改善に努めました。米国が戦争に参加すると彼は召集されイタリアで戦いそこで負傷し、その勇敢な行動により受勲しました。戦後はイタリアに14年間留まり、ファシズムと共産主義が激しく対立していた時代にMRAで働きました。エルスベスと知り合ったのは、彼がコーに連れて行った代表団の通訳を、4か国語を操る彼女がしてくれたことがきっかけでした。

アダムは初めてのコー訪問について、次のように書きとどめています。

「明るい瓦屋根と櫓が太陽に照らされて輝いていた。米国ビュイック社製の車はパワーがあったので、とても急な勾配で曲がりくねった道を登ることは何の苦労もなかったが、戦後間もない小型車のドライバーにとっては、ラジエターが沸騰したり故障したりすることなく頂上までたどり着けるかどうかを試練だった。人生の喧騒から離れ、静かに人生について考えるのに、これ以上完璧な場所はないと思う」。

二人の婚約は郵便で行われました。アダムはイタリアに、エルスベスはアメリカにいました。彼女が婚約を承諾すると、共産主義者の労働組合幹部がアダムのために祝賀パーティーを開き、一方元ファシストである義父も負けじとアダムを自宅に招いて夕食会を開きました。その晩、アダムはホストの家の窓から見える丘に見覚えがあることに気が付きました。彼は戦争中、狙撃兵の銃撃を受けながらその丘を苦労して登ったことがあります。「狙撃兵がどこから撃っていたか知っているか？」とホストがアダムに尋ねました。「君が足をおいているその椅子からだ！」。

夏の会議のためにコーに滞在していた全員が結婚のお祝いに参加しました。その中には、イタリア人教授で社会

主義の政治家であるウンベルト・カロツとその妻もいました。ピエモンテの山中で休暇を過ごしていた彼らは、前日に招待状を受け取ったばかりで、コーに着いた時は疲れ果てた様子でした。

「彼らはロバに乗って一番近い村まで下りていかなければならなかったのですが、その村で小型車を持っている友人を見つけることができました。ウンベルトがその友人を私たちの結婚式に招待したので、夜を徹して車を走らせ、礼拝と祝宴に間に合うように到着し、私たちを大いに喜ばせてくれました」。

アダムとエルスベスは、1999年にエルスベスが亡くなるまでの46年間、生活を共にしました。アダムは2008年に亡くなりました。ふたりは過去75年間にコーで築かれ聖別された多くのパートナーのひと組です。

メアリー・リーン 私たちは完璧に結ばれた

